

文化財調査報告書

調査日 : 平成22年3月14日

1. 種 別 無形民俗文化財
2. 名 称 大塚ばやし
3. 員 数 ー
4. 指定年月日 昭和45年1月30日
5. 伝 承 地 市原市海保
6. 伝 承 者 大塚ばやし保存会 (25名)

7. 現状及び環境

大塚ばやしはもともと海保神社の祭礼ではなく、出羽三山へ詣でた行人が持ち帰った梵天を、大塚山（地区背後の丘）に埋納する梵天納めの儀式に際して、山車の上で奏されたという。およそ20年に一度の梵天納め（大供養、大祭ともいう）の儀式には近隣の付き合い村（お互いの梵天迎えに、山車を出し合う間柄の村）の山車6台（五層からなり人形を飾った大掛りなもの）も加わって大変賑やかな祭りとなり、自然に囃子の演奏も競い合って、より派手な身振りで太鼓を叩くようになったらしい。大塚地区では昭和31年を最後に梵天納めは行なわれなくなったので、神社祭礼日に演奏するようになった。戦後まもなく結成された「海若はやし連中」を経て、昭和41年には会員18名で「大塚ばやし保存会」をスタートし、昭和45年には県指定を受けている。

広義の大塚はやしの曲目は、ゆったりとした導入曲「岡崎」、「屋台」「昇殿」「神田丸」「鎌倉」「四丁目」を続けて奏する「五ばやし」、房つきのバチを用い身体を大きく揺らしながら太鼓を叩く「馬鹿ばやし」からなり、調査時の演奏時間は全部で約15分である。狭義の「大塚ばやし」はこの「馬鹿ばやし」を指す。楽器編成は笛、大太鼓、ボルト締めの小太鼓、摺鉦からなり、曲名、曲調からも明らかに江戸囃子系である。ただし県指定当時の提出資料（市原市教育委員会）によれば、「笛1名、鉦1名、大太鼓1名、小太鼓2名」と典型的な江戸囃子の人数になっているが、現在は小太鼓の人数を大幅に増やし、音や身振りの揃いの美しさをねらっている。調査日には、大塚山の麓に平成17年完成したふるさと里山会館の前の広場に、2段組み背景幕付

き舞台を組立て、上段には大太鼓 1 人を中に左右に小太鼓 1 人ずつ、後ろに笛と鉦各 1 人が立ち、下段には 6 人の小太鼓が並んだ。この移動舞台はステージ出演の時も用いる。調査日にはあいにく地区で不幸があり、町内廻りはやらなかった。

現在の保存会員は 25 名である。指導役の笛の方は 50 代だが、中年、若者から幼児まで各年代にわたっており、なかには保存会結成当時のメンバーの息子や孫もいる。昨年は 3 名の幼児の加入があったといい、また新住民にも参加を呼びかけている。稽古は通年毎週土曜日夜 8 時から行っており、海保神社祭礼のほか敬老会、市の行事、納涼祭などへ出演している。

8. 芸態の変化

人数編成の変化により、江戸囃子の個人芸披露から華やかな音や身振りの揃いの美しさ追求へと、芸態の変化があった。この変化がいつごろからなのか不明であるが、大勢で揃って演奏することの魅力、格好良さが地区民の支持を受けており、狭い山車ではなく 2 段組み移動舞台を造る（昭和 50 年）などは地元の工夫、特色として容認すべきと思う。

9. 取り扱い上の留意事項

大太鼓が大中小 3 個（稽古用含む）があるが、うち 1 個に破れがある。今後、修理を検討する。

10. 公開にあたっての取り扱いについて

特になし

11. その他参考にすべき事項

これまでに作成された記録

- ・ 「大塚ばやし」 VHS 平成 5 年度制作 35 分 文化財記録映像ビデオ第 1 期



大塚ばやし